

みなさん、こんにちは。2019年も残りわずかとなりました。2019年、平成から令和に代わりましたが、皆さんにとってどんな年でしたか。今年の1月の始業式では亥年(いどし)は地震が多い年という話をしましたが、今年は水害という台風19号による甚大な被害が起きてしまいました。改めて、被災された皆さんにお見舞いを申し上げるとともに一刻も早く平常の生活にもどれますよう復旧が進むことを願ってやみません。

さて、先週の12月18日(水)に長野県の阿部知事と意見交換を行う県政タウンミーティングが長野県立大学三輪キャンパスで行われ、「長野県という地域で若者がどういう役割を果たせるか、学生自身のこれからの夢」をテーマに8名の学生が発表を行ったそうです。その8名の中に1年生ながら皆さんの先輩で今春、長野県立大学に進学した小林優生斗(ゆきと)さんが選ばれ、中野西高校時代に取り組んだESD活動をもとに、今年「わくわく信州中野100人会議」に参加し、同33期生の仲間と一緒にさらに活動の幅を広げ、高校生や子どもたちの力を活かして中野市を元気にしたいという思いを立派に語ったそうです。自分の考えを誰かにしっかり伝え表現できるということは素晴らしいことだと思いませんか。頭の中で考えているだけでは相手に伝えられません。自分から情報発信する力、意見を述べる力、自分の思いを文章や絵や音楽などで表現する力など、これからはそんな力をもっと磨くべきだと思います。

そういえば、2018年からスウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんが「私は安心したい。私たちが人類史上最大の危機にあることを知っているのにどうして安心できますか？」と投げかけ、地球温暖化防止の対策を本気で取り組まなければならないと訴えました。大人たちの無策で地球温暖化が進み、自分たちの未来が奪われてしまうと怒りの演説を行っている姿を皆さんもニュースなどで目にしたはずです。彼女の活動が世界に広がり、今、多くの若者の賛同を得ています。「世界の姿勢に変化を起こした」として16歳最年少で2019年アメリカのタイム誌の「今年の人」に選ばれ、表紙を飾りました。

ところで昨日まで本校では文化展が開催されていました。文化系クラブの発表や委員会の展示発表、美術の授業作品、先生方の展示作品・発表などなどとても充実していました。そんな発表や作品の中に、改めて皆さんの高校生の力のすばらしさを感じました。

また、今年の翔舞祭では1年生が「SDGs」をテーマに調べたことをクラス展示発表してくれました。皆さんご存じのとおり、SDGsとは「Sustainable Development Goals」の略号で「持続可能な開発目標」です。世界が直面しているさまざまな問題をこのまま放置できないということから、2030年までに世界が達成すべき17のゴール(目標)、169のターゲット(達成基準)を決めました。2015年9月に開かれた「国連 持続可能な開発サミット」では、すべての加盟国がこれに合意し、持続可能な社会の実現に「地球上の誰一人として取り残すことはしない」と誓ったのです。

2030年と言えば、あと11年後です。11年で本当に変わるためには、いや変えるためには、他人事ではなく、自分事として、できるところから始めることが必要です。SDGsへの取り組みは、大学でも企業でも行政でも取り上げられており、もはや特別なことをするというではありません。一人一人が意識して日常生活において自分の行動を変えることから始まります。

今年のユネスコウィークのテーマは「私はESDに関連して〇〇をしている」と言えるようになりましょう！でした。17のゴールは密接につながっています。17のゴールから自分が最も関われそうなゴールを決めて、私はこのゴール達成のためにこんなことをしていますと言えるようになってほしいと思います。

中野西高校で学ぶ皆さんにはESDやSDGsの視点を持って、今年の自分を振り返り、これからの自分を考えてみてください。また、県政タウンミーティングのテーマであった「長野県という地域で若者がどういう役割を果たせるか、学生自身のこれからの夢」について、皆さんだったら何を語りますか。自分をどのように表現しようか、自分の力を信じて、さらに一歩前へ踏み出してください。

新しい年、2020年、令和2年、子年(ねどし)が皆さんにとって、素敵な年となりますよう祈念して終わりにします。良い年をお迎えください。